評価基準

食べる

　咀嚼機能

　　機能的因子による歯列・咬合の異常がある（３歳以降に評価）

 下顎前突　上顎前突　開咬　叢生　正中離開

　　　　交叉咬合　１歯でも逆被蓋　過蓋咬合

　　　　咬合性外傷（著しい動揺、歯肉退縮）

　　咀嚼に影響するう蝕がある （１歳半以降に評価）

　　　　歯冠崩壊歯　喪失歯

　　強く咬みしめられない（３歳以降に評価）

　　　　咬筋に盛り上がりがない

　　咀嚼時間（３歳以降に評価）

　　　　長すぎる（１分以上）、

　　　　短すぎる（５秒未満）

　　偏咀嚼がある （３歳以降に評価）

　嚥下機能

　　舌の突出（乳児嚥下の残存）がみられる（離乳完了後、１歳半以降に評価）

　　　　①上下顎歯列間に舌が介在している。

　　　　②上下前歯舌面に舌を圧接させて嚥下する。

　　　　③歯列の側方に舌を突出させて嚥下する所見がある。

話す

　構音機能

　　構音の障害がある（５歳以降に評価）

　　　　カ・サ・タ・ナ・ラ行に音の置換、省略、歪み等がある

　　口唇の閉鎖不全がある（３歳以降に評価）

 安静時に口唇閉鎖を認めない

　　口腔習癖がある

　　　　吸指癖、舌突出癖、弄舌癖、咬唇癖、吸唇癖など

　　舌小帯に異常がある（分葉舌が見られる）

　　　　舌の運動制限（舌尖が歯列外に出ない）

その他

 栄養（体格）

　　やせ、または肥満である

　　　　カウプ指数・ローレル指数で評価

　　その他

 　　習慣性口呼吸がある

　　　　口蓋扁桃等に肥大がある

 睡眠時のいびきがある

　　　　上記以外の問題点

・乳児期においては、先天性歯による舌下部の潰瘍（Riga-Fede病）などがみられる。

・以下のような誤嚥を疑う所見がある場合など。

　　嚥下時に鼻腔に食物・水分の漏れがみられる（鼻咽腔閉鎖不全）。

　　嚥下前後、嚥下時のムセがある。

・保護者への問診から、なかなか飲み込まない、口の中の食物を吸う、

　　遊びながら食べる、飲料で流し込んで飲み込む、食べこぼしが多いなど。

・話し方に問題がある（話がゆっくり過ぎる、早口すぎる）など。